［まちづくり編］



中村　いよいよまちづくり編に入りたいと思います。高速道路や新幹線など高速交通網の整備が進んでいますが、今後更に激しくなることが予想される地域間競争に勝ち抜くためには何が必要なのでしょうか。

　県単位で考えると、商業や経済面では熊本県は福岡県に勝てないと思います。しかし、第一次産業や観光の面では福岡に勝てる素材がたくさんあります。熊本らしさをどう表現していくのかが重要になってくると思います。県南地域は更に厳しいかもしれませんが、都会にはない安心・安全でみんなが助け合えるまちづくりを進めることが必要になると思います。そして流入人口をいかに増やすか。そのための施策を官民が一体となって展開していくことが必要だと思います。そして何より、長い目で見ると教育なのではないかと考えます。次世代を担う子どもたちをしっかりと育てていくことが一番だと考えます。

（聞き入る二人・・・）

中村・坂本　それでは、ずばり２００８年のまちづくりのキーワードはなんでしょうか。

　それは難しい質問ですね。主力でやっていかないといけないのは、役場裏の宅地分譲だと思っています。時期的にも今は団塊の世代の人たちが定年を迎えるんですね。都会で走りつづけてきた人たちが退職後の生活をどうするか考えたとき、のんびりとした田舎に帰ってくるという選択ができる時代になっていると思います。それに本町も過疎化で人口が減少しています。それに歯止めをかけるという人口政策の意味があります。また、家が建つということは経済波及効果がありますので産業振興にもつながる取組だと考えます。他にも人口政策としては公営住宅の整備も必要だと思いますね。分譲地には公営住宅用地も確保していますので、将来の建設事業に向けた準備も必要だと思っています。それから、本町は高齢化率が33％を超えています。これからはもっとお年寄りが活躍できる場をつくっていくことも課題だと思います。お年寄りが手間ひまかけて作ったものをグリーンゲイトや四季彩、ふれあいの店、朝市などで提供できる体制づくりを更に進めていきたいと考えています。これはこれからの福祉政策のひとつの形になってくると思います。

坂本　昨年は「住んでいる人が『幸せ感』を感じることができるまちづくり」ということを話されていました。その実現のために必要なことは何でしょうか。

『集い』の場を大切に

　都会で失われている人間関係や地域性等を守っていくことが必要だと思います。そのためにはふれあい祭りや町民体育祭など、みんなが集う場所を保つことが重要だと考えます。また、小さいからこそ生まれる安心感や信頼感というものを大切にしていきたいと考えています。本当に地道なことですが、これまでやってきたことを充実させることが必要なんだと思います。また最近では、川内地区や古中尾地区などで自主的な活動も出てきており外部との交流も進んできました。そのような交流を進めることも重要になってくると思います。

無駄なものや『ゆとり』があってこそ人生は豊かになる

　美術館はお金がかかるし無駄じゃないかという意見がありますが、いかに必要とされる人間になるかが大切です。役場も少ない人数で質の高い仕事をするためグループ制を導入しました。大変な反面、勉強にもなりますので、町の進むべき方向を見据えながら一生懸命やって欲しいと思います。そして、個々の仕事をうまくやるためには、政府の動き、県の動き、そして世の中の動きをしっかりと捉えることが必要です。新聞やマスコミの情報を分析し、町を良くするためにはその情報をどのようにアレンジしたら良いのか、常に自分の仕事に結びつけて考えて欲しいと思います。



中村・坂本　本日はお忙しい中にどうもありがとうございました。私たちも住みたくなるまちづくりの実現に向けて全力で頑張りたいと思います。

田舎らしさを磨く

　田舎らしさの中には様々な豊かさの要素があります。都会ではお金さえあれば満足を得ることが出来るかもしれませんが、人とのつながりや温かさなど心までは満たすことはできないと思います。田舎らしさを追求していくことも『幸せ感』の実現につながっていくのだと思います。

　そして最後にこちらからお願いです。二人とも町外出身ですが、町民の方をまず覚えることですね。そして積極性を持ってどうしたら町民の生活がより良くなるのかを提言していって欲しいと思います。公務員も政治家も同じですが、いかに必要とされる人